

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 学力向上総合推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 高校教科教育係 電話番号：058-272-1111(内8670)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,540 千円 (前年度予算額： 5,040 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,040	0	0	0	0	0	49	0	4,991
要求額	5,540	0	0	0	0	0	49	0	5,491
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

教育環境が大きく変化していく中で、教員の指導力の向上と21世紀の岐阜県を担う生徒の学力を育成するための指導方法と教材の研究、生徒の興味・関心や優れた能力をより一層伸ばすコンテスト等を実施する。

(2) 事業内容

①授業力向上推進プロジェクト

学習指導要領を踏まえた教育を推進するための授業改善の研究を行うため、各教科の委員会を開催。

②個性伸長事業

生徒の関心や意欲を高め、個性を伸ばし、資質や能力を活用する力を育成するために日頃の成果を発表する場を提供する。

③法教育推進事業

法律の専門家による出前授業を、県内高等学校で実施するとともに、出前授業を法教育担当教諭等を対象とした公開授業とする。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,034	講師謝金等
旅費	2,218	学校訪問、研究会等に係る旅費
消耗品費	1,591	教材開発、賞状、記念品等
印刷製本費	241	作品集録の印刷、表彰状等の筆耕印刷
役務費	247	賞状への筆耕等
保険料	109	傷害保険
使用料	100	機器資材運搬、会場使用料等
合計	5,540	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

・第4次岐阜県教育ビジョン

施策Ⅱ 「未来を創る確かな学力と実践力」の育成

(施策)8 未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

生徒一人ひとりが新しい時代を生きる基礎学力を育むため、個の学習状況に応じたきめ細かな指導の充実を図る指導体制づくりや教材開発等の充実を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R10)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

一人ひとりの生徒の確かな学力を育成し、多様な個性の伸長を図るとともに、全教科において取り組む事業であるため、指標の設定にそぐわない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	新学習指導要領を踏まえた授業改善に関する研究を行うため、各教科の委員会を中心に、観点別学習状況評価に関わる研究、一人一台端末を活用した授業実践などを基に、実践事例集等の作成や研究会等での発表を通して各学校への普及を図った。
令和5年度	各教科の委員会を開催し、観点別学習状況評価の実践、一人一台端末を活用した指導や評価などを中心に学習指導要領を踏まえた授業善に関する研究をさらに進め、実践事例等の作成・公開や研究会等での発表を通して各学校への普及を図った。
令和6年度	各教科の委員会にて、一人一台端末を活用した指導の工夫、観点別学習状況評価の適正な在り方、「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業について、実践・研究を行った。その成果は、実践事例集等の作成・公開や、研究会等での実践発表を通じ、県内各校での授業改善に資するものとした。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	学習指導要領の目標の実現に向けた教師による授業改善と、コンテストなどの活用により、生徒の個性を伸ばし確かな学力を身に付けさせるため。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	各教科の実践研究の成果が有効活用され、授業改善が図られている。また、コンテストに多くの生徒が参加し、日頃の学習成果を発表する場が提供されている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	各学校と情報交換・情報共有を密にし、連携を図りながら事業を実施している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 生徒に確かな学力を身に付けさせ、興味・関心や優れた能力を伸ばすため、事業普及を図り、一層の改善を進める必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 学習指導要領の趣旨を実現し、県内全ての児童生徒の資質・能力の育成を支援する研究や実践を積み上げ、公開・普及していくことが必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	<div style="text-align: right;">【〇〇課】</div>
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	